

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2023(令和5)年 8月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）〒759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

盆法会

のご案内

いのちを尊ぶ法要
魚法会
全戦争犠牲者追悼法要

八月十四日（月）
十五日（火）
朝九時より

十五日 法要終了後
九時四十分頃から

平和への願いを、響き渡る鐘の音に重ね、いのちを尊ぶ生き方の一歩としましょう。どなたでも撞くことができます。

平和の鐘を撞きましょーう

※ お盆期間中、納骨堂にお参りされる方。ぜひ本堂にもお参りください。
懐かしい写真も掲示してあります。

ご予約
ください

第57回三隅親鸞聖人鑽仰会法座
期日：9月27～28日 会場：豊原 宗善寺
講師：深川宣暢和上 ※お寺で送迎いたします。





電子マネーへの違和感

電子マネーが普及して、現金を持ち歩かない人が増えているようです。確かに便利ですよね。支払いがスムーズだし、ポイントが貯まってお得だし、銀行に行く手間も省ける。良い事ばかりと思いきや、実はそうでもないような。特にお寺には馴染まないと思うのは、私が古い人間だから…というわけでもないのです。

こんなエピソードがあります。ある保育所では、一つの問題を抱えていました。お迎えに来る親御さんの遅刻が増えてきました。お迎えまでの間、保育士さんが居残らねばなりません。困った保育所では、遅刻に対し「罰金」をとることにしました。ところが予想に反し、遅刻は増えたのです。なぜなら「お金さえ払えば、遅れてもいいんだ」と「料金」のように受け止められ、それまで感じていた後ろめたさがなくなったから。『それをお金で買いますか』マイケル・サンデル)

「罰金」には、やめて欲しいという願いが込められています。しかし、それを「料金」とする時、願いは見失われます。お金

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

を払うという行為は同じでも、中身は別物になるのです。

私が電子マネーを警戒する理由は、ここにあります。これまでは剥き出しにせず、慎みをもって包み、手渡すという文化がありました。

そこには「ただ、お金を渡しているのではない。心を手渡しているのだ」という敬意と思いが込められていたのです。コスパ(費用対効果)やタイプ(時間対効果)という経済合理性から見れば、無駄に見える行為なのかもしれません。「ピツ」という電子音と共に、金額のみ行き交う関係が効率的。しかしそれだけでは、見失うものがあるのです。相手を思うが故の、ひと手間。込められた温もりやメッセージ。人間の営みは、効率や合理性だけでは量れません。それらに気づく感性が、電子マネーの普及により、ますます衰えそうで怖いのです。特に私は、流されやすいので。

そうなる、「御布施」も「料金」のように扱いかねません。「布施」とは本来、「施し」「喜捨」の意味で、仏教の重要な実践行為。自分の持ち物を他者に施すことで、執着から離れ、身心を整える

西本願寺の新聞『本願寺新報』から、法話の執筆依頼がありました。せっかくですので、『極楽寺だより』にも掲載いたします。

ためのものです。その施しは、金品（財施）だけではありません。仏法の施し（法施）や安心感を与えること（無畏施）、笑顔（和顔施）など様々なものを施し施されることで、他者との関係が深まり、自らが育てられていく。それが「布施」という営みなのです。

その心を見失い、効率ばかりを重視すると、渡す側も受け取る側も、「料金」や「サービス」のように扱ってしまいます。いや、すでに扱っているのかもしれませんが。

仏教説話『貧者の一灯』は、「王様が金にあかせて寄進した多くの灯火は消えてしまったが、老女が貧しい中にも心を込めて寄進した灯火は消えなかった」というお話です。金額の多寡よりも、真心が大切なのだというこの譬え、きれいごとと受け止められがちですが、とんでもない。なぜなら、金額だけで人を量るとは、「もっと高い金額が貰えるのなら、あなたでなくてもいい」ということ。つまりは他者を、そして自分を取替可能なモノとして扱うことであり、「あなたでなくてはならない」という「かけがえのなさ」を手放す行為だからです。ならば『貧者の一灯』は、人間のかけがえのなさを奪う行為に抗う、仏法からのメッセージだと言うことが大袈裟でしょうか。➔

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

お寺は、経済活動の中にありながら、経済合理性とは違う枠組みで成り立っています。この私を「かけがえのない存在」だと願われる阿弥陀如来のはたらきと出あい、共に願いをかけられている「かけがえのない存在」としての他者と出あう。そんな温もりある願いが行き交う場なのです。そして、世の流れに対峙し、抗う価値観を発信できる場でもあると、私は考えています。

電子マネーが、すべていけないとは思いません。私も使っています。それに、貨幣経済が隅々にまで浸透し、様々なものが商品化されてしまった社会では、お金がどれほど重要かも身に染みています。しかし時代に流され、金額や効率では量れないものに気づく感性を失うと、自分の人生も、そしてお寺の存在意義も見失ってしまうのではないか。そう警戒しながら、仏法に問い尋ねる日々を過ごしています。■



しょうごん 「お荘厳」



しょうごん お荘厳とは、お寺やお仏壇ぶつだんの「仏様を中心としたお飾りやお供え」かざ そなのことです。またそれらを「整える」ととの営みのことでもあります。

お仏壇は、阿弥陀様の国であるお浄土じょうどをあらわしています。

な かた まつ 亡き方を祀る場所だと思っている人も多いのですが、中心はあくまでご本尊ほんぞん・阿弥陀様です。

亡き方も生きている私たちも皆、阿弥陀様の大慈悲だいじひによって支えられ、導かれ、救われていくのです。阿弥陀様なくして、亡き方と出会うこともできません。だからこそ、阿弥陀様のお浄土であるお仏壇に手を合わせるのです。

お寺やお仏壇のお荘厳は、阿弥陀様をはじめお花も仏具もお供えも、すべて私たちにむけて置かれています。これは、阿弥陀様の世界が、人生まよに迷い苦悩する私たちのためにあることを意味しています。

せんもんてき 専門的になりますが、阿弥陀様のお浄土は、三つの要素から成り立っているとされます。

- ① じゅうかんきょう 清らかな住環境である「国土」こくど
- ② 中心となる「仏」ぶつ
- ③ 仏のもとに、共に集う「菩薩」ぼさつ

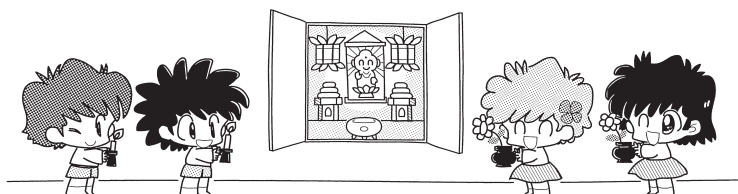
これをお仏壇に重ね合わせると、このように味わえるのではないかと思います。

- ① 「国土」 ⇒ お仏壇や仏具、お供え
- ② 「仏」 ⇒ ご本尊の阿弥陀様

但し、どんなに立派かざに飾られたお仏壇に、美しいご本尊あんちが安置されていても、充分ではありません。なぜなら③「菩薩」として、私たち自身がお仏壇の前に座り、お念仏申す身となること、お荘厳には不可欠だからです。

時々、「お仏壇を、どの向きに置いたら良いのか」と悩まれる方がおられます。この問題も、実は仏壇をどちらに向けるかはどうでも良くて、自身が仏壇に向かうという「私の向き」むが定まることこそが重要であり、それがお荘厳を完成させるということなのです。

(参考 『慈光があるから生きていける』 早島大英 本願寺冊子 2004年春彼岸『春風ひかる』より)



日頃耳慣れない、お寺で使われる言葉を、ご紹介する、「お寺の業界用語」。

月々の言葉

Monthly Words



8月の言葉

私が『極楽寺だより』で文章を書き始めたのが、二〇〇四年の八月号から。つまり今号で、何と！二十年目に入ることになります。読んでくださった方々の声が励みになり、ここまで続けることができました（何も反応がなかったら、切なくて続けられなかったと思います）。また書くことで、自分の考えをまとめることもできました。日々の生活で、「そういうえば、あんなことを書いたよなあ」と思い出し、自省し、行動を改めたりと、書いた文章に自身が育てられたこともありました。とても大切な歩みになったと思います。ただ、もつと短くてわかりやすく、何より心に響く文章が書ければ良いのですが…。反省は多々ありますが、より良い文章になるよう心掛け、これからも続けていくつもりです。励ましただけではなく、ご意見もお寄せください。そして、私は文章を掲載するにあたり、必ず踏む手順があります。それは、後輩と坊主に読んでもらうこと。私には、発表前の文章を

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

んで、意見をくれる後輩がいるのです。上手く褒めて、気分を乗せてくれる時があれば、耳の痛いことを言われることも。でもこの過程が、私にはとても大切な時間なのです。実は私、彼を「スゴ腕批判人」と呼んでいます（必殺仕事人みたいに）。

「この表現は、読みにくいですよ」「ここは、物足りないですね」といった厳しい指摘。彼は仏教学の専門家ですから「この言葉は、そんな意味で使ってはいけません」といった容赦のないダメ出し。しかし、彼の批判があるからこそ、改善点が明らかになるのです。私にとって、とても大切な存在です。

ところで皆さんは、批判されるのは好きですか？「好き」と答える人は、少ないのでは。できれば、褒められる方が良いでしょう。私も同じです。特に近頃は、批判＝悪口のように受け止められていますからね。でも、後輩からの批判に応じて、何度も書き直し、見直す度に、明らかに文章が磨かれていくのがわかるのです。仏教語の説明についても、専門家のお墨付きがあった方が安心できますし、「これで良いんじゃないですか」と言ってもらえると自信になります。良き批判をしてくれる人がいるからこそ、より良いものができる。そう痛感しています。

ただ彼も僧侶ですので、二人だけで考えてい



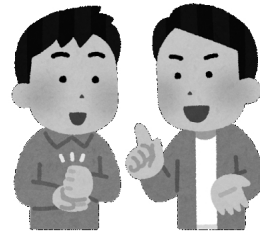
ると、ついつい専門的で、難解な表現になることも。だからこそ坊守に見てもらい、素朴な意見を聞くことも欠かせません。やはり、様々な角度からの視点は大切です（それでも、難しい文章になる時もありますが、それは私の実力不足。真摯に受け止めるしかありません）。

文章って、残りますからね。後々「こんな酷い文章を、世に出していたのか」と悔やむより、ダメ出しや批判をされても、納得できるものにした

い。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という言葉がありますが、自尊心を優先して一時のことを恥ずかしがるよりも、一生の恥にならぬよう批判に耳を傾けた方が、ゼツタイに良いと思います（そういえばこの言葉、最近聞かなくなりましたね）。もちろん、力のなさを感じる箇所は多々ありますが、「あの時点での精一杯」と思えるなら、まだ受け止めることができます。

とはいえ、ダメ出しされるより、嘘でも褒めてもらった方が嬉しい。自分の思いが、すんなりと通った方が楽。それが正直なところですが、でも、批判を通して磨かれた先に、自分が思っていた以上のものが出上がっていく。その驚きにはかないません。

ちなみに皆さんは、「批判」と「否定」の違いを、ご存知ですか？同じようで、実はまったく違うのです。ある方が、「批判は創造的、否



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

定は破壊的」と言われていましたが、私にとってはこの表現が一番腑に落ちました。

「批判」を辞書で調べると、「批評し判断すること」とあります。物を事を鵜呑みにせずに、検討する。客観的に見て、良い点も悪い点も同じように指摘し、論じ判断する。それが「批判」です。そこには、人を責めるという意味はありません。

より良いものを創るためには、違う角度からの意見は不可欠なのです。より良い町や国を創ろうとする時も同様です。「ああ、こんな考え方もあったのか」「こんな立場の人もいたのか」と、視野が開かれています。相手の存在が認められ、想像力や共感性が育てられる。「反対」も、違う立場からの意見ですから、大切なもの。いろんな視点からの意見は葛藤を生みますが、それがあからこそ浅く薄っぺらなものにならないし、より洗練されていく。それが「批判は創造的」ということです。一方「否定」とは、「違う」と打ち消すこと。認めないことです。それがもし、冷静で客観的な態度でなかったら、一方的な価値観で相手を決めつけ、切り捨てる行為でしかありません。それはまさに、相手の存在を「破壊」する行為です（それが、国政の場で行われることを、「全体主義」や「専制政治」と言います）。

近頃は、「批判」も「否定」も、そして「反対」も、すべて悪口のよ



否定として受け止めたり、自分は批判しているつもりが否定的な押しつけになっていたり、反対のための反対になってしまったり…。する側も受け止める側も、それがより良いものを創る営みにつながるかどうかを、吟味する必要があるようです。もしそれが、生きる力を奪うような破壊的言葉なら、さっさと逃げ出した方がいい。インターネットやSNSには、そんな言葉が飛び交っています

中国の高僧・曇鸞大師は、仏様の「真実の功德（利益・恵み）には、「不実の功德」と

「真実の功德」という二つの相（姿）がある」（『往生論註』）と言われてます。真実を知られることが功德というだけではなく、不実を知られることも、また功德なのだと。とても面白い表現だと思いませんか。

例えば、あなたにとっても大好きな友人がいるとします。あなたは友人を親しく思っていますから、遠慮なくズケズケとものを言い、時にはからかうこともある。ところが、第三者から「アイツはこんな事情を抱えているから、キミのあの一言には、とても傷ついているんだよ」と指摘されました。あなたなら、どう受け止めますか。

「自分の発言が、知らずに友人を傷つけていた。教えられなかった」



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

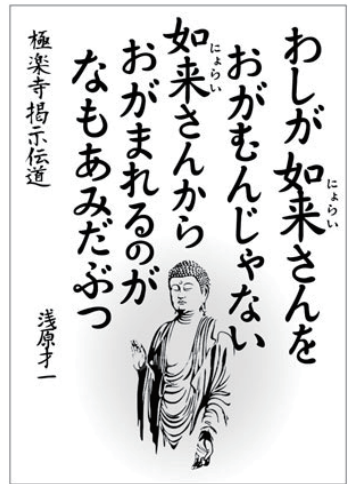
ら、大切な友人を失っていたかもしれない」と、自らの不実な有り方に目覚め、有り難い指摘として受け止めた時、友人との関係は新しいものとして創り直されていきます。これを「不実の功德」を得ると言うのでしよう。

しかし、「自分の言動を否定された。恥をかかされた」と受け止めるなら、それは友人の思いを認めることもなく、自分の価値観だけで切り捨てているだけ。「否定」的な行為をしているのは、あなた自身になってしまいます。

反対の意見も、耳の痛い指摘も、自分にとって悪いものとは限らないのです。それどころか、私が見失っている大切なことを知らせてくださる「教え」なのかもしれません。「良薬口に苦し」と言うではないですか（この言葉も、最近聞きませんね）。

私に届けられている教えにうなずき、新たな人生が開かれ、創造されていく。様々な視点の間を葛藤しながら、揺らぎながら、そして深まっていく。仏法を聞くことも、このような態度だと知らされるのです。

余談ですが、今回も『スゴ腕批判人』の容赦なき指摘に磨かれた、「現時点での精一杯」の文章であることを、お伝えしておきます（またはや長くなったことは、大きな反省点ですが）。モチロンもつとつと、より良いものができるよう、これからも歩み続けていくつもりだということも、加えて申し添えます。■



9月の言葉

今月の言葉は、浅原才市さんの言葉です。才市さんは明治大正期

を生きた人で、妙好人と讃えられた方々の一人です。妙好人とは、

「言葉では言い尽くせないほどの素晴らしい人」という意味で、篤信の

念仏者への讃辞をあらわします。特に才市さんは、世界的な仏教学者

鈴木大拙博士が『日本の霊性』『妙好人』という書物を通して紹介した

ことで、一般に、そして海外の人にも高く評価されるようになりました。

才市さんには、肖像画についての有名な逸話があります。ある時同

じ町の画家が、才市さんの肖像画を描いてくれました。それを見て「こ

の絵は私に似ていない」と才市さんは言い出します。それを聞いた画

家さんはムツとして「どこが似てないのか」とたずねました。すると

才市さんは「いい顔すぎる」と言うのです。私はこんなに良い人間で

はない。鬼のような心を持って、人を憎んだり、嫉んだり、恨んだり

する私が、少しも描かれていないと。「では、どうすればあなたに似

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

るのか」と聞くと、「頭に角を描いてくれ」と。そこで二本の角をはやした絵に描き替えたというお話です。(参考『妙好人のことは』梯實圓) 自分の写真に加工し、盛って、より良く見せようとする今の時代とは、真逆な話ですよ。 「自虐的だ」とか「偽善的」などと言われかねない時代です。しかし、才市さんの言葉には、卑屈な感じがしないのです。自然体で、地に足を着けた確かささえ感じられます。なぜでしょう。それは、深い宗教性に支えられた、内省の言葉だからです。才市さんには、このような詩があります。

「慚愧のご縁に逢ふときは 時も機もあさましばかり

これがくわんぎ(歡喜)のもととなる

なむあみだぶ(南無阿弥陀仏)のなせるなり」

「慚愧」とは、自らを恥じるとのこと。そんな我が身を「あさまし」と恥じるご縁が、喜び(歡喜)のもとであると。おかしな話ですよ。

何より恥じることと喜ぶことは、本来

矛盾しています。しかしこれが、南無

阿弥陀仏に依れば成立するのだと、才

市さんは言うのです。

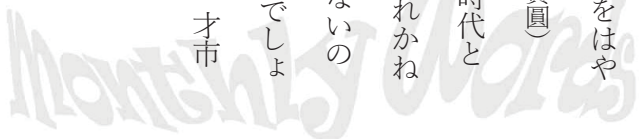
お念仏を通して、阿弥陀如来のはた

らきに出遇う。そのはたらきは、迷いを迷いとも気づかず、迷いを深

める私のためものだとは知らされる。そこに我が身の浅ましさが照



肖像画をもとにした、才市さんの像
大田市温泉津町温泉津温泉街



らし出され、慚愧が生まれてくる。同時に、私はそこまで深く願われている、かけがえのない存在だと知らされ、歓喜の念仏が生まれてくる。その歓喜はまた、慚愧すべき身であることを忘れてはならぬと照らし出し、その慚愧はまた、深く願われているという歓喜を生み出していく。それらはすべて、阿弥陀様のはたらしによるものであるのだと。

阿弥陀如来に受け止められる実感があるからこそ、才市さんは安心して自分の愚かさに向き合えたのでしょう。私が拝むより先に、私は拝まれていた。阿弥陀様の救いの中にあるからこそ、目を背けることも、誤魔化すこともしなくていい。ありのままの自分と、素直に向き合える。

この感覚は、「弱さを認めるのは負けだ」「愚かさを認めるのは恥だ」と感じている人には、なかなか実感できないのかもしれない。特に最近の社会は、その傾向が強くなっていますから、安心して自分の愚かさに向き合えることがどれほど豊かな人生を開くのかということは、伝わりにくいと思います。

先日、父の遺した資料を整理していた時のこと。祖父と父が発行していた、極楽寺の寺報が出てきました。昭和三十六年から十一年間、合計三十一回発行されたもの。パソコンもコピー機もない時代、ガリ板印刷で手刷りです。多い時には、四十ページ近くもある号もあり、よくもまあこれほどのものと感心する、クオリティーの高い冊子

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

でした。そこには、毎号『住職日記抄』と題したコーナーがありました。今でいえば、ブログのようなものでしょうか。当時住職を勤めていた祖父の動向や日常の中の思いが綴られていました。

私の祖父・大融が往生したのは、私が中学生の時。祖父にとって初孫だった私は、とても可愛がられたのだそうです。でも、正直なところ私には「厳しいじいちゃん」というイメージしかありません。周りから言われることと、自分の印象のギャップに違和感を持っていたのですが、この冊子のおかげで、その秘密が明らかになりました。

私が生まれた頃に発行された第十六号には、初孫が生まれたことの喜びが、読んでいる私が恥ずかしくなるほど、嬉しさをたっぷりに書かれています。その後も、「秀見がいないと、寂しい」などの言葉も見られます。まさに溺愛といったところでしょうか。確かに、可愛がられていたことがよくわかります。

ところが、昭和四十五年一月発行の第二十八号に書かれた『年頭随想』には、こう書かれていたのです。「わが愛する孫がもう四才である。今では保育所に通っている親たちにとっては、幼児教育の大切な時期である。いろいろな躰も必要である。私はこの孫が生まれて今日まで眼に入れても痛くない思いで可愛がっ



てきたが、それはあまりにも年寄りの盲愛に過ぎたようである。この盲愛の影響がそろそろ孫の性格の上にも現れて来たようである。おそろしいことだと思っている。今年からは孫に対する愛情の表現も、大いに自省を要するのではないかと思う」と…。

この文章を読んだ坊守と娘は、大爆笑していました。私って、一体どんな子どもだったのでしょうか。孫のことを「眼に入れても痛くない」とまで愛する祖父にここまで言わせるほど、みんなの手を焼かせていたのかと思うと、ただただ赤面するばかりです（まあ、心当たりがないわけではありませんが…）。つまり、私のイメージする「厳しいじいちゃん」は、私がそうさせていたということなのです。祖父が溺愛したい思いを抑え、あえて厳しい態度をとったのは、すべて私の成長を思うが故の行為。そんな心もはたらきも、この文章を読まなければわからないままでした。私は恥ずかしさと同時に、とても温かいものに包まれていることを感じました。

私に向けられた願いとはたらきに気づかされた時、我が身の浅ましさが照らし出される。しかしそれは、私のための思っていることだと知らされる時、温もりと喜びが生まれてくる。そしてまた、その心に気づかなかった愚かさや頭が下がっていく。才市さんのいただけられる慚愧と歓喜は、このような関係で生まれてくるのではないかと考えさせられました。そしてそれらはすべて、私が思うよりも先に、私を

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

思ってくださいる心によるものであったことも。

祖父の文章を読んで、改めて私自身の子育てを振り返ってみました。私も「ああすれば良かった」「こんなこと、しなければ良かった」と反省ばかり。ただ、子どもたちに対して、「オレの子育ては失敗だった」とは、言えないなあとも思っています。なぜなら、子どもたちが「私は、失敗作なんだ」と受け止めてしまいかねないからです。それでは、こちらの思いが伝わりません。ならばせめて、「私の子育ては失敗ばかりにもかかわらず、よくぞここまで成長してくれた」と感謝の言葉を添えたいものだと思います。■

極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。



極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで検索
又は QR コードから



元総代長の木村慎治さんが往生されました。総代を 21 年間（内、総代長を 11 年間）勤められ、お寺に貢献してくださいました。長い間お世話をいただき、本当にありがとうございました。



物でお布施

mono de OFUSE

プルトップも、
集めています！



書き損じはがき・未使用切手・未使用テレホンカード
商品券やビール券など金券・CD・DVD・ゲームソフト
ゲーム機器など。

未使用タオルやバザー一品となるようなものも、
受け付けています！

本堂正面から入って右手奥に、
回収箱を用意しています。



住職の
つぶやき

Jyusyoku's
Tweet

□ 本文でも申し上げましたが、私が『極楽寺だより』に文章を書き始めて、今号で 20 年目に突入します。よくもまあ、続いたものだといながら感心していますが、これも皆さまの支えがあつてのこと。「いつも読んでます」と声をかけてくださる方、「今回は、難しかった」と意見をくださる方、わざわざ葉書に感想を書いて送ってくださる方がおられたからこそ、それを励みに続けられました。自分を待っていてくれる人がいる。その思いに応えようとする時、人は思いもよらない力を発揮することができる。そのことを、身を持って知らされています。□ しかしこのところ、文章がどんどん長くなっているのが頭痛のタネです。もっと短く、簡潔にしたいのですが、私の力ではなかなか…。文芸批評家の加藤典洋さんは「簡単なことばとは何だろうか」ということについて「それは寄り道をしないでまっすぐに語られたことばである。どこかで最短距離がたどられている。どこかで糸がぴんと張っている。だからその糸電話を通じて小さな声も聞こえてくる」と言われています。簡潔な言葉でありながら、そこに深みと響きが感じられる。そんな言葉で文章が書けたらいいなあ、日々試行錯誤しているのですが、より良いものができよう、精一杯歩いていきたいと思ひます。どうぞこれからも、お付き合いください。(住職)



極楽寺 Tシャツ 好評受付中！

一枚 1,000 円のご懇志でお渡しします。
受け付けてから発注しますので、少し時間がかかります。




いやはや、信じられません。大健闘です。前半戦が終つて、カーブが首位に肉薄しています！ 新井監督のもと選手たちが生き生きとプレーしている姿を見て、もう大満足。優勝しなくても、後半失速しても、これだけ頑張ってくれたら、文句は言いません。久しく「強いリーダー」が求められてきましたが、リーダーに振り回され、現場が混乱したり、過酷な労働環境になってしまう話を、至る所で聞くようにもなりました（「車を売るなら～」の会社も、そうみたいです）。ところが新井監督は、周囲の人々のパフォーマンスを引き出し高めていくという、ひと味違うリーダー像を示してくれました。これは、来年以降も楽しみです！■

子ども会のご案内

コロナ禍による三年間の休止期間を経て、いよいよ子ども会の活動を再開いたします。
身近な子どもさんに、参加をおすすめください。

大津東組 (長門・三隅地区の真宗寺院の集まり) キッズサンガ

火起こし体験と
飯盒炊飯 

8月25日(金)
俵山 西念寺

13時極楽寺集合 20時半頃帰宅
送迎は、お寺で行います
参加費 500円

8月15日までに、
お寺へお申し込みください。

極楽寺 夜の子ども会

花火と
かき氷の夕べ 

8月17日(木)

夜7時30分から9時には終わります。

極楽寺境内にて

申し込み不要・参加費なし
中高生も、どなたでもどうぞ

詳しくは、お寺へおたずねください。

お寺からの
お願い

ろうそつどう さんばい
納骨堂の参拝についてのお願いです。くれぐれも火の後始末をお願いします。特
ひ あとしまつ おねが
に、何人も続いてお参りされる場合、ろうそくの火を「次の人のために」と消さず、
そのままにすると落とし穴が！ 結局つけっ放しで危険なことに…。次の方に「ろう
ばな きけん
そくの火を消して下さいね」と、一言かけていただけると、助かります。



次回法座の予定

納骨堂追悼法要 9月23日(土) 秋分の日

秋の永代経法要 11月8日(水) 9日(木)

御講師 中島昭念 師(美東町 明厳寺住職)